

群 教 七	E03 - 03
	平21.241集

自らの考えが発信できる高校英語の指導の工夫

－ チャンクシート、サマライジングシート、チャットチャートの活用を通して －

長期研修 研修員 吉澤 直子

《研究の概要》

本研究では、生徒は話す活動に必要な言語材料を聴いたり発声したりして音声に慣れる。次にチャンク(意味のまとまり)シートで英文の意味をチャンクごとに理解し、チャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえる。さらにサマライジング(要約)シートを使って、教科書本文の内容を要約し、とらえた言語材料(チャンク)を習得する。最終的にはコーチングにおける傾聴と質問の技術を参考にしたチャット(会話)チャートを活用しながら自分の考えが発信できるための指導法を研究したものである。

キーワード【英語-高 チャンクシート サマライジングシート チャットチャート 発信】

I 主題設定の理由

文部科学省が平成20年3月に告示した新学習指導要領によると、高等学校外国語の目標に「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とあり、今後実践的コミュニケーション能力の育成が重要となっている。平成20年1月に提示された中央教育審議会答申においても、外国語教育の課題は「単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』の育成がより重要である」となっている。また群馬県教育振興基本計画(平成21年～25年)によると、本県の英語教育高等学校の課題は「義務教育の成果を発展させて、英語を母語とする外国人と会話ができるコミュニケーション能力を育成し、体験的・実践的な英語教育を推進すること」となっている。

協力校では英語の授業において、生徒が英語の質問に英語で答える際、発話するまでに時間がかかり過ぎたり、一問一答で会話が終わってしまうといった様子が見られた。また英語の成績が良い生徒であっても「読むのは何とかできるが話すのは苦手だ」と述べており英語を発話することが難しいと感じていることが分かる。また事前アンケートの結果でも、英語の言語活動4領域のうち「話すこと」が苦手だとする生徒は2年生240人のうち71%と最も多いことが分かった。

その原因を探ると、次の二つが挙げられる。

一つ目は、英語を発話するために必要な英語の知識や言語材料となる単語や構文が音声として十分に習得できていなかったことである。二つ目は生徒の自由な意見や考えを発信する活動が十分でなかったことである。具体的には従来のパターンプラクティスが、事前に準備された英文の空欄に英単語のみを入れかえて発声するといった反復練習であったからである。

そこで本研究では、インプット(言語材料を提供する)過程でリスニングや音読を取り入れ、話す活動に必要な言語材料を聴いたり発声したりして音声として十分に慣れさせる。次にインテイク(習得する)過程で、本文の内容をチャンクごとに意味をとらえさせ、そのチャンクを「話す」活動につながる言語材料(チャンク)として習得させる。次にアウトプット(表現する)過程で、生徒同士が質問と応答を繰り返しながら、お互いに自分の意見や考えを相手に伝え合う。以上、三つの過程が、自らの考えを英語で発信するための指導法として有効であるかを検証するために、本主題を設定した。

II 研究のねらい

高校2年生が英語IIの授業において、3種類の補助シートを基に、インテイクの過程でチャンクを話す活動につながる言語材料として習得し、アウトプットの過程でお互いに質疑応答を繰り返しながら、自らの考えを英語で発信できるような指導法を授業実践を通して検証する。

なお、インプットの過程は従来のリスニングと音読活動を行なうため検証の対象から除く。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 インテイクの過程①において、チャンクシートを利用した活動を取り入れることによって、英文の意味をチャンクごとに理解し、そのチャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえられるであろう。
- 2 インテイクの過程②において、サマライジングシートを利用した活動を取り入れることによって、教科書本文の内容を口頭で要約し、とらえたチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得できるであろう。
- 3 アウトプットの過程において、コーチングにおける傾聴と質問の技術を参考にしたチャットチャートを利用した活動を取り入れることによって、質問と応答を繰り返しながら、お互いの考えを発信できるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え

(1) チャンクシートを利用した活動について

チャンクとは2～8単語程度からできている意味のまとまりのことである。英語を話す際にはこのチャンクをつないで英文を構成する。話す活動を目的とするためには、話す言語材料としてチャンク単位でとらえるのが必要である。

また英文を聴き取る場合、英語を母語とする人は始めから終わりまで一文全部を聴き取ってから内容を理解しようとするのではない。冒頭からチャンクごとに内容をイメージするように理解している。そのことからチャンクに意識させることは重要であると考えられる。

チャンクシート（図1）とは英文をチャンクごとに改行したものを左半分に配置し、右半分にそれぞれのチャンクの意味を配置したワークシートである。

チャンクシートを利用した活動とは、生徒はペアになり、一人はチャンクシートを見ながらチャンクごとに日本語を伝え、もう一人は何も見ずにそのチャンクを口頭で英語に変換していく活動である。この活動を通して、生徒は英文の意味をチャンクごとに理解し、チャンクを「話す」活動につながる言語材料としてとらえるであろう。

Lesson 9 Chunk Sheet	
* One person: Say Japanese. The other person: Change into English.	
This area used to be a good habitat for various animals and plants.	この地域はかつてはよい生息地でした 様々な動物や植物にとって
Now, however, there is almost no biological diversity in this area.	しかしながら今 ほとんど生物多様性はありません この地域には
People have cut and burned down all the tree here.	人々は切り燃やしてしまいました ここにあった木をすべて

図1 チャンクシート

(2) サマライジングシートを利用した活動について

教科書本文の内容を要約させる理由は二つある。一つ目は英文の内容理解をさらに深めるため、二つ目は日本語を介さずに英語のみで要約し、アウトプットの過程で自らの考えを入れて英語を発信する活動へつなげるためである。

サマライジングシート（図2）を利用した活動とは、プロジェクタで映し出された写真や絵、ワークシートの単語（キーワード）をヒントに、教科書本文の内容を口頭で要約する活動のことである。

この活動を通して、生徒は教科書本文の内容を口頭で要約し、とらえたチャンクを実際に活用することで、そのチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得できるであろう。

Summarizing Sheet	
Talk about "the deforestation in Amazon" we learned today	
Key Words:	Chunk
① Because of deforestation / Hint species, habitat, extinction	
② human activities / Hint increase, the number of	
③ The destruction / Hint 40 years	
④ Road construction / Hint major	
Your friend's name:	Total /26

図2 サマライジングシート

(3) チャットチャートを利用した活動について

チャットチャート（図3）を構成する際にコーチングにおける質問の技術を参考にした。理由は、質問者に視点をあてて質問の仕方を工夫することで、相手から考えなどを引き出しやすくするためである。その構成はイエス・ノーで答えるクローズドクエスチョンから始めて、次に自分の考えを

自由に答えるオープンクエスチョンに発展させるものである。会話が第1ステージから第4ステージへ段階的に無理なく進むように工夫した。

またコーチングにおける傾聴の技術である相づち表現、繰り返し表現の使い方をワークシートに示し、生徒がそれらを使って英語での会話を進められるように工夫した。

チャットチャートを利用した活動とは、ペアに

なった生徒の一人は、チャットチャートの第1ステージから始め、第4ステージまでの質問項目を選択して質問する。応答する生徒は何も見ずにその質問に答える活動である。

このチャットチャートを使えば、生徒は習得した言語材料（チャンク）を活用し質問に答えながら、自らの考えが発信できるであろう。

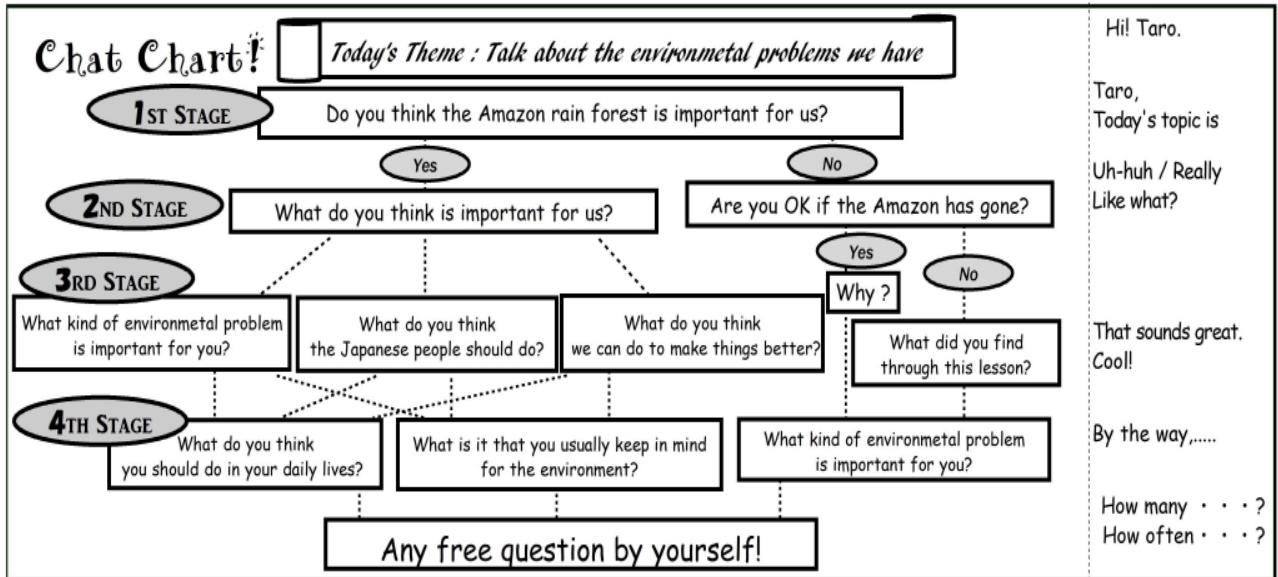
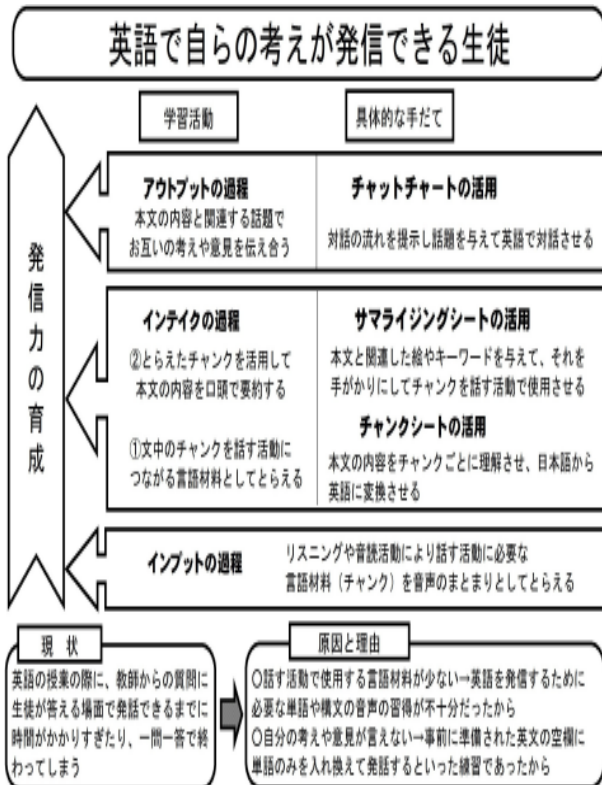


図3 チャットチャート

2 研究構想図

本研究の概要は以下の通りである。



(1) 授業実践計画

対象	県立伊勢崎清明高等学校 第2学年
期間	平成21年10月26日(月)～11月6日(金) 18時間 6時間×3クラス(1クラス30人)
題材名	「Save the Amazon Rain Forest」 WORLD TREK ENGLISH COURSE II 桐原書店
授業者	長期研修員 吉澤 直子

(2) 抽出生徒

生徒A	英語の学習に対する意欲があり読解力も高い。 チャットチャートを活用し自分の考えを発信する力を身に付けさせたい。
生徒B	英語の学習に対する意欲はあるが、聴く・話す力が不足がちで、自分で考え表現することが苦手である。サマライジングシートを活用し教科書本文を口頭で要約することで、とらえたチャンクを発信する力を高めさせたい。
生徒C	英語に苦手意識をもち英語活動に消極的である。単語レベルから段階的にチャンクにつなげる学習で苦手意識を克服させたい。チャンクシートでチャンクに気付き、本文に関する質問にチャンク単位で答える力を身に付けさせたい。

3 検証計画

	仮説 1	仮説 2	仮説 3
観点	チャンクシートは、英文の意味をチャンクごとに理解しそのチャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえるのに有効であったか。	サマライジングシートは、とらえたチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得するのに有効であったか。	チャットチャートは、自分の考えを発信する活動に有効であったか。
方法	学習活動の記録（ビデオ分析） 自己評価シート 事後アンケート	学習活動の記録（ビデオ分析） 自己評価シート 事後アンケート	学習活動の記録 （ビデオ分析とダイアログテスト） 自己評価シート 事後アンケート

V 研究授業実践

1 題材の目標及び評価規準

目標	(1) 英文の意味をチャンクごとに理解し、英文はチャンクをつなげることで構成されることに気付き、チャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえる。 (2) 教科書本文の内容を口頭で要約し、とらえたチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得する。 (3) 教科書本文と関連した話題に沿って生徒同士で会話しながら、自分の考えを意欲的に発信しようとする。			
評価規準	ア 関心・意欲・態度 (言語活動への取り組み)	イ 表現の能力 (正確な表現)	ウ 理解の能力 (正確な読み取り)	エ 知識・理解 (言語についての知識)
	① ペアワークにおいて、英語で積極的に発信しようとしている。	① 伝えたい情報を整理して話して伝えることができる。 ----- (適切な表現) ② 相づちや繰り返しといった基本的な会話技術を使用できる。	① 本文の内容をチャンクごとに正しく読み取ることができる。	① 環境問題に関連した単語や語句を知っている。 ----- (文化についての知識) ② ブラジルのアマゾンが抱える環境問題を知っている。

2 指導と評価の計画(全6時間)

※自撮り文字は研究の手だてを示す。過程においてインプットはA, インテイクはB, アウトプットはCと表記する。

時間	過程	学習内容 ○ねらい・学習活動	◎学習活動への支援	具体的評価規準との 関連と評価方法
1	A	○本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○ブラジルとアマゾンに関する説明及び本文の音声を聴き取る。 ・リスニング→聴き取りのポイントをとらえて聴く。 ・音読1→音声CDを聴きながらオーバーラッピング ・音読2→教師のあとについてコーラスリーディング	◎ブラジルとアマゾンに関連する映像を示しながらプレゼンテーションする。その際に教科書本文にある単語や表現を多用するように心がける。 ◎聴き取りのポイントを示す。 ◎音読はチャンクごとに区切る。	
	B ①	○教科書本文の内容の意味をチャンクごとに理解し、チャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえる。 ・ペアになり一人がチャンクシートを見ながらチャンクごとに日本語を伝える。もう一人はチャンクシートを見ないでそのチャンクを英語に直していく。	◎チャンクシートはチャンクごとに改行されていることを説明する。 ◎英文はチャンクで構成されていることを説明し、チャンクごとにとらえることの意義を伝える。	ウー① 方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいてチャンクごとに日本語から英語に口頭で変換できているかどうかを観察する。 判断：対話が進んでいれば○と評価する。
2	A	○前時の学習内容「ブラジルとアマゾンの現在の様子」について説明を聴きながら既習事項の確認及び教科書本文の音声を聴き取る。 ・リスニング→聴き取りのポイントをとらえて聴く。 ・音読→音声CDを聴きながらオーバーラッピング	◎「ブラジルとアマゾンの現在の様子」に関連する映像を示し、それについての質問を投げかけながら既習事項の確認をさせる。 ◎聴き取りのポイントを示す	エー② 方法：活動の観察 手順：教師の質問に答えられるかどうかを観察する。 判断：答えられていれば○と評価する。

2	B	○本文を見ないでチャンクごとに音声をとらえる ・教師のあとについてシャドーイングする	◎内容よりも音声に注意し聞こえた音 をなるべくまねるように伝える。	
	B ②	○学習したチャンクを活用し「ブラジルとアマ ゾンの現在の様子」を口頭で要約する。 ・ペアになり、一人はサマライジングシートにある教 科書本文の出だし（文の主語）を手がかりに既習のチャ ンクを使って「ブラジルとアマゾンの現在の様子」 について口頭で要約する。もう一人は再生できたチャ ンクを数えて記録する。	◎サマライジングシートを使って教科 書本文を要約する際に学習したチャン クを活用するように伝える。 ◎サマライジングシートを利用した活 動での評価規準を事前に伝える。	アー①、イー① 方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいて学習し たチャンクを使って要約できてい るかどうかを観察する。 判断：要約できていれば○と評価 する。

(授業後に行う評価)

方法：活動の様子を記録したビデオの分析

手順：チャンクを活用して本文の内容が要約できているかを分析する。

判断：チャンクを活用して要約できていれば○と評価する。

方法：ワークシートチェック

手順：活用できたチャンクの数が入力されたシートを確認する。

判断：チャンクの数で20個以上活用できれば○と評価する。

3	A	○本時の学習内容「アマゾンの森林破壊の様子」 に関する説明及び本文の音声を聴き取る。 リスニング→聴き取りのポイントをとらえ聴く。 音読1→音声CDを聴きながらオーバーラッピング 音読2→教師のあとについてコーラスリーディング	◎アマゾンの森林破壊の様子に関連す る映像を示しながらプレゼンテーショ ンする。その際に教科書本文にある 単語や表現を多用するよう心がける ◎聴き取りのポイントを示す。 ◎音読はチャンクごとに区切る。	
	B ①	○教科書本文の内容の意味をチャンクごとに理 解し、話す活動につながる言語材料としてとら える。 ・ペアになり一人がチャンクシートを見ながらチャン クごとに日本語を伝える。もう一人はチャンクシート を見ないでそのチャンクを英語に直していく。	◎チャンクシートを配付する ◎日本語から英語に変換する際に、単 語単位ではなくチャンクごとに変換す るように伝える。	ウー① 方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいてチャンク ごとに日本語から英語に口頭で変換 できているかどうかを観察する。 判断：対話が進んでいけば○と評価 する。

4	A	○前時の学習内容「アマゾンの森林破壊の様子」 について説明を聴きながら既習事項の確認及び 教科書本文の音声を聴き取る。 ・リスニング→聴き取りのポイントをとらえて聴く。 ・音読→音声CDを聴きながらオーバーラッピング	◎「アマゾンの森林破壊の様子」に関 連する映像を示し、それについての質 問を投げかけながら既習事項の確認を させる。 ◎聴き取りのポイントを示す	エー② 方法：活動の観察 手順：教師の質問に答えられるか どうかを観察する。 判断：答えられていけば○と評価する。
	B	○本文を見ずにチャンクごとに音声をとらえる ・教師のあとについてシャドーイングする	◎内容よりも音声に注意し聞こえた音 をなるべくまねるように伝える。	
	B ②	○学習したチャンクを活用し「アマゾンの森林 破壊の様子」を口頭で要約する。 ・ペアになり、一人はサマライジングシートにある教 科書本文の出だし（文の主語）やヒントとなる語句を 手がかりに既習のチャンクで「アマゾンの森林破壊の 様子」について口頭で要約する。もう一人は再生でき たチャンクを数えて記録する。	◎サマライジングシートを使って要約 する際には単語単位ではなく学習した チャンクを活用するように伝える。	アー①、イー① 方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいて学習し たチャンクを使って要約できてい るかどうかを観察する。 判断：要約できていれば○と評価 する。

(授業後に行う評価)

方法：活動の様子を記録したビデオの分析

手順：チャンクを活用して本文の内容が要約できているかを分析する。

判断：チャンクを活用して要約できていれば○と評価する。

方法：ワークシートチェック

手順：活用できたチャンクの数が入力されたシートを確認する。

判断：チャンクの数で21個以上活用できれば○と評価する。

5	A	○本時と次時を通して身に付ける技能や理解 する内容を知る	◎本時と次時のテーマを提示する。	
---	---	---------------------------------	------------------	--

〈改良前〉	
Hello Ai,	こんにちは アイ
It was nice to hear from you.	うれしいです あなたから便りをもらって
Let me answer your question.	あなたの質問に答えましょう
Because of deforestation, many species have been losing their habitat and are now facing extinction.	森林破壊のために たくさんの種が 生息地を失いました そして今や絶滅に瀕しています
Of course, some extinction is natural.	もちろん 絶滅の中には自然のものもあります
But human activities have really increased the number of endangered species.	しかし人間の行為は 確かに増加させました 絶滅危惧種の数を

〈改良後〉	
Because of deforestation, many species have been losing their habitat and are now facing extinction.	森林破壊のせいで たくさんの種が 生息地を失いました そして今や絶滅に瀕しています
But human activities have really increased the number of endangered species.	しかし人間の行為は 確かに増加させました 絶滅危惧種の数を

図5 改良前と改良後のチャンクシート

(2) 事後アンケート、自己評価シートの結果から

事後アンケート結果(図6)から、77人中76人(99%)の生徒が「チャンクシートは英文の意味をチャンクごとに理解するのに役に立ったと思います」と答えている。

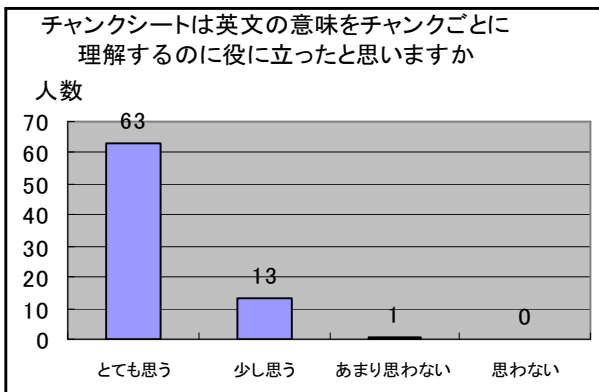


図6 事後アンケート結果 (チャンクシート)

また、チャンクシートについて生徒の感想は次の通りである。

- ・短いチャンクなら日本語から英訳するのが楽だ。
- ・チャンクで切っただけが英文を暗記しやすい。
- ・チャンクで覚えると文が組み立てやすい。
- ・チャンクは短いから一文を一気に訳すより内容を理解しやすい。

生徒は英文を理解するためには単語レベルよりチャンクを意識したほうが便利だと認識し、チャンクシートについては好意的にとらえている。

一方、「あまり思わない」と回答した1名の生徒の理由は、「従来の書いて覚えるやり方のほうがいい」である。

以上のことから、ほとんどの生徒にとってチャンクシートを利用した活動を行うことは英文の意味をチャンクごとに理解し、そのチャンクを話す活動につながる言語材料としてとらえることに有効であったと考えられる。

2 インテイクの過程②で、サマライジングシートを利用した活動を取り入れることは、教科書本文の内容を口頭で要約し、とらえたチャンクを実際に活用することで、そのチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得することに有効であったか

(1) 学習活動の観察から (ビデオ分析結果)

1回目の活動では、制限時間内に英語ですべての要約を終了したペアはほとんど見られなかった。またチャンクシートでとらえたチャンクもあまり活用できていなかった。(図7参照)

原因は二つ考えられる。一つ目は、サマライジングシートを使って教科書の内容を口頭で要約するという活動は生徒にとって初めてだったので、活動の流れを把握するのが難しかったようだ。二つ目は、プロジェクタで投影された映像とサマライジングシートに載せた教科書本文の出だし(文の主語)だけで本文の内容を要約できなかったのは、この活動の前のインプットが十分でなかったようだ。

そこで、2回目の活動ではサマライジングシートを改良し、文の主語のほかにも要約に使用するヒントとなる単語を加えた。(図8参照)

その結果、2回目の活動では、すべてのペアが制限時間内にチャンクを活用して要約を終えた。

活動(1回目)	
生徒A	生徒B
Brazil has ?	Brazil has
Brazil has the largest?	largest rain
最上級の前置詞だよ	the largest tropical rainforest
活動(2回目)	
Because of deforestation	Because of deforestation
have been losing?	many species losing habitat
face extinction?	and extinction. ...
	Because of deforestation
	many species have been
	losing habitat and are
	facing extinction now.

図7 サマライジングシートを使った活動の様子

〈改良前〉

Key Words:	Chunk
① Brazil is the fifth largest country /	
② Brazil has /	
③ Since 1908, /	
④ Brazil has lost /	

教科書の本文の主語のみ

〈改良後〉

Key Words:	Chunk
① Because of deforestation / Hint species, habitat, extinction	
② human activities / Hint increase, the number of	
③ The destruction / Hint continue, 40 years	

文の主語以外の単語を加えた

図8 改良前と改良後のサマライジングシート

(2) 事後アンケート、自己評価シートの結果から

事後アンケート結果（図9）から、77人中71人（92%）の生徒がサマライジングシートの有用性について肯定的に回答している。しかし「とても思う」が28人に対し、「少し思う」が43人（55%）と一番多かった。

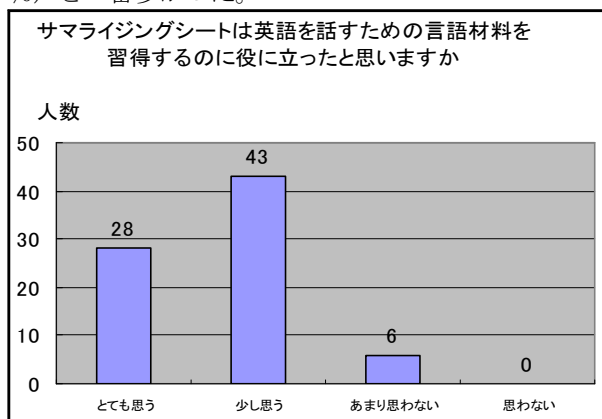


図9 事後アンケート結果（サマライジングシート）

またサマライジングシートについて、生徒の感想は次の通りである。

- ・文法が合っているかは不安だがチャンクを使って英語が話せた。
- ・教科書の内容をより深く理解できたのがよかった。
- ・少しずつでも自分で考えて英語が言えたのが良かった。
- ・1回目は難しかったけれど、2回目はヒントがあったのでたくさん英語が言えるようになった。

生徒はサマライジングシートを利用した活動を通して、チャンクを音声として習得し教科書の内容をチャンクを活用して要約することで、英語が話せるようになったと感じていることが分かる。

また「少し思う」と回答した生徒の多くは、「もっと要約する前にチャンクシートで本文を覚える時間が必要だった」と述べている。なお、「活動

の仕方が分からなくて始めるのが遅くなってしまった」という感想もあり、サマライジングシートを使った活動に慣れていなかったことが分かる。

さらに、「あまり思わない」と回答した生徒は「難しすぎて全くついていけない」や「単語を並べても英文の構造が分かっていないと結局できない」と述べていて、英語の基礎学力の差によってサマライジングシートの有効性に差があることが分かる。

以上のことから、サマライジングシートを利用した活動を取り入れることは、ワークシートの使用方法の提示の仕方を工夫したり基礎学力を考慮したりする必要はあるが、ほとんどの生徒にとって教科書本文の内容を口頭で要約し、とらえたチャンクを実際に活用することで、そのチャンクを話す活動で使用する言語材料として習得するのに有効であったと考えられる。

そのほかに、「たくさんの単語やチャンクを使って、頭をフル回転させた感じだった」という生徒の感想もあり、この活動が生徒にとって普段の授業よりも頭を使う活動であったということが分かる。

3 アウトプットの過程で、チャットチャートを利用した活動を取り入れることは、自分の考えを発信することに有効であったか

(1) 学習活動の観察から（ビデオ分析結果）

授業時間内にペアを換えてチャットチャートを利用した活動を3回実施した。

1回目の活動では、チャットチャートを使い、オープンクエスチョンまで終了するペアもあれば、会話が進まず制限時間内にオープンクエスチョンまで行けないペアもいた。

ペアワークの進度差を招いた原因は、生徒の事前準備の程度にある。用意した英文を暗記してきた生徒は、チャットチャートをうまく使えて最後のステージまで到達していたということが分かった。（図10参照）一方、英文を用意していなかった生徒は、チャットチャートをうまく使えず会話が進まなかった。

2回目の活動では、チャットチャートを使い、ほとんどのペアがオープンクエスチョンまで会話を継続できた。1回目の活動では、応答する際に英文が書かれたメモを読みながら答えていた生徒も、2回目ではメモを見ずに質問する生徒のほうを向いて会話をしていた。進度の速い生徒は、1

回目の活動での会話の繰り返しだったので、チャットチャートをあまり使わずに会話を楽しんでいる様子も見られた。

3回目の活動では、ほとんどのペアがチャットチャートを使わずにオープンクエスチョンまで進めることができた。さらにチャットチャートに示された相づち表現や繰り返し表現を活用しながら英語のみでの会話を継続させようとする様子も見られた。

質問する生徒 (チャットチャートを使用)	応答する生徒
Hello. Can I ask you something? Do you think the Amazon rain forest is important?	Yes.
Uh-huh. Well... What do you think is important?	I think...well...because we find a cure for cancer in the Amazon.
Uh-huh. Good. Well.. what kind of environmental problem is important for you?	I think...global warming.
Really. What do you think you should do in your daily lives?	Well.. I think...we should try not to increase CO2. CO2 is not good.

図10 チャットチャートを使った活動の様子

(2) 事後アンケート、自己評価シートの結果から

事後アンケート結果(図11)から、77人中73人(95%)の生徒がチャットチャートの有用性について肯定的に回答している。

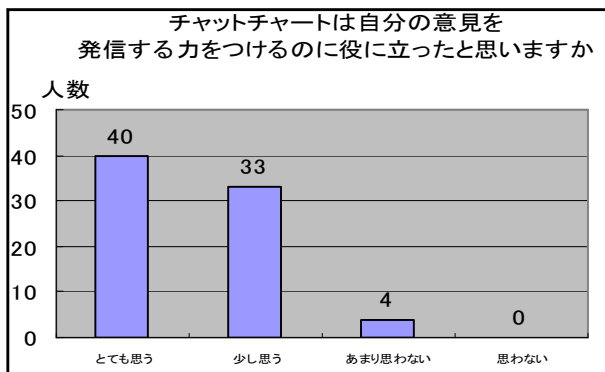


図11 事後アンケート結果(チャットチャート)

またチャットチャートについて、生徒の感想は次の通りである。

- ・チャットチャートを使うことで自分なりに英文を考え工夫して言えた。
- ・勉強した単語がずらずらと頭の中に浮かんできて英語が話せていると感じた。
- ・メモを見ないで会話するなんて絶対無理だと思っていたけれど、だんだん言えるようになった。
- ・活動の最後の方には覚えたチャンクがつながるようになったので英語力が上がったような気がする。

生徒は、チャットチャートを使うことで自分の考えを英語で発信できるようになり、また習得したチャンクを実際に使うことで英語力の向上にも有効だと感じていることが分かった。

しかし、「少し思う」と回答した生徒の中には、「同じ内容を繰り返したただけなので、応用力は期待できない」という意見があった。チャットチャートでは質問項目が限られてしまい、即興的な会話までなかなか到達できなかった。その結果、英語の基礎力のある生徒にとって同じ会話を繰り返すチャットチャートでは不満足感が残ったようである。

また、「あまり思わない」と回答した生徒は、「家で英文を暗記してこなかったのが、事前に覚える時間が欲しかった」とあった。チャットチャートを利用する前の準備が不十分で、チャットチャートがうまく使えなかった。アウトプットの過程前半に自分の考えを覚える時間を充実させる必要がある。

以上のことから、上位層の生徒の不満足感や生徒の準備不足でチャットチャートの活用が十分ではなかったことなど課題もあるが、事後アンケート結果を見ると、チャットチャートを利用した活動は、概ねほとんどの生徒にとって自分の考えを発信するのに役に立つととらえていることから有効であったと考えられる。

(3) 抽出生徒の変容から(ダイアログテスト結果)

3名の抽出生徒で、チャットチャートを利用した活動の前後で発信した英文を比較し、考察する。

① 抽出生徒A

抽出生徒Aは第3ステージから第4ステージと会話が長く継続できるようになった。また習得したチャンクを活用して自分の考えを発信している様子も見られる。さらに、答えるまでにかかる時間もほぼ5秒以内であった。(図12参照)

ステージ	事前
2	The ability to be and to use information
3	To call friends and family and to send e-mail
4	

ステージ	事後
2	I think it important for us not to destroy an rain forest.
3	I think garbage issue is important.
4	I think we should refuse plastic bag and try to use eco-bag.

図12 抽出生徒Aの発信した内容

② 抽出生徒B

抽出生徒Bは、会話が第2ステージまでだったのに対して、第4ステージまで継続できるようになり、最も高い効果を示した。文法的な間違いは多少あるが授業で習得したチャンクを使いながら、会話を継続できるようになった。

(図13参照)

ステージ	事前
2	It is picking up information that we think important.
3	
4	

↓

ステージ	事後
2	Amazon rain forest will be able to find <u>a cure for cancer</u> .
3	I think it is important to <u>work on planting trees</u> .
4	I think it is important <u>not to waste paper</u> and to recycle.

下線部は習得したチャンク

図13 抽出生徒Bの発信した内容

③ 抽出生徒C

抽出生徒Cは活動3回目にして制限時間の最後まで会話を継続できるようになった。しかし、発話するまでに時間がかかり第4ステージまで進むことができなかった。(図14参照)

ステージ	事前
2	I think...
3	
4	

↓

ステージ	事後
2	I think <u>the number of endangered species increase</u> .
3	We should try not to use car.
4	

下線部は習得したチャンク

図14 抽出生徒Cの発信した内容

上記の分析結果から、どの生徒も会話が以前よりも継続できるようになったことから、チャットチャートの有効性が伺える。しかし、抽出生徒AとBの最終到達点が同じになってしまい、抽出生徒Aの発信力を十分高められなかった。そこで、応用力のある生徒はペアの編成の工夫をしてお互いが高め合えるようにしたり、制限時間内にさらに即興的な会話ができるような工夫も必要だと分かった。また抽出生徒Cが第4ステージまで進むためには、自分の考えをきちんと用意させる必要があると分かった。

VII 成果と課題

1 成果

- チャンクシートは英文の意味をチャンクという意味のかたまりごとに理解していくことで、ほぼ全員の生徒が英文の内容が理解しやすくなり英文を構成しやすくなったと考えられる。
- サマライジングシートを活用すれば英語を母語とする人と同様に、日本語を介さずにチャンクをつないで発信できるようになったと考えられる。
- チャットチャートを利用した活動では、ほとんどの生徒が英語のみでの会話を継続でき、自分の考えを発信できたと考えられる。
- チャットチャートを利用した活動の前段階として、ブレインストーミングを取り入れたことで、生徒はテーマに関連した語句や表現をさらに多く知り、自分の考えを精選できたと考えられる。
- ICTを活用したインプットの過程において生徒はプロジェクタで投影された映像を見ながらリスニングすることで、教科書の内容がイメージしやすくなり、また単語や構文も習得しやすくなったと考えられる。

2 課題

- 本研究において、インプットの過程は全授業6時間のうち、1時間程度のみを設定であった。しかしこの過程が最も重要でより多くの時間をかけなければならないと考えられる。
- チャットチャートを利用して自らの考えを発信する活動において、基本的な会話技術の他にもさらに多くの「つなぎの語句」などを示すことで、応用力のある生徒が話題を広げ即興的な会話を継続できるようにワークシートを改良していくことが必要であると考えられる。

〈参考文献〉

- ・高等学校学習指導要領 外国語編 文部科学省